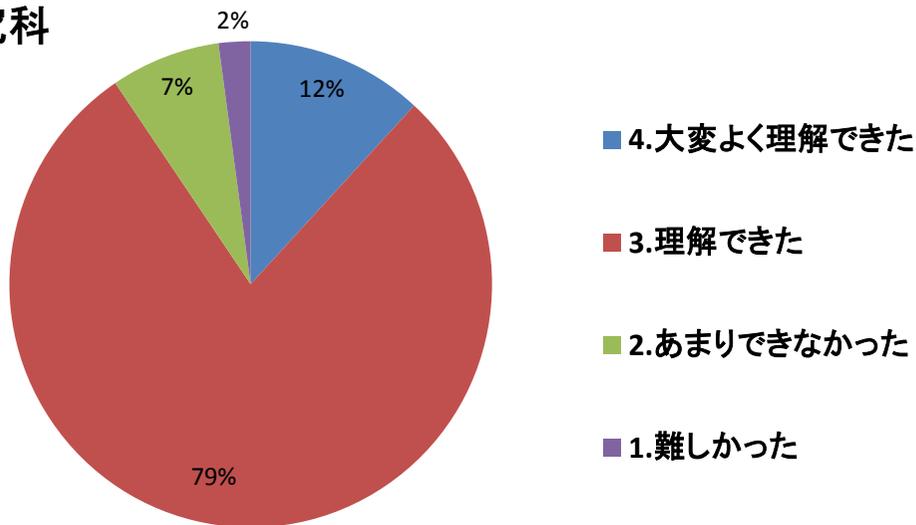


⑥ 周術期院内急変

名古屋大学大学院医学系研究科
救急集中治療医学講座
高橋 英夫



- 様々な術後、麻酔関連合併症を早期発見できるようにPACUというシステムがあることを初めて知った。改めて合併症を学ぶいい機会となった。(女性 看護師)
- 周術期におけるリスクは非常に高ことがわかり、PACUが医療安全面からも重要性が高いことが良く理解出来ました。医療行政主導で、保険点数などの整備と共に、システム構築に積極的にあたってほしいと感じました。(男性 放射線技師)
- 現在、外科病棟に勤務しています。周術期患者の看護において、きちんとしたPACUもなく個室での観察を行っており、リスク回避のためのスタッフのストレスも大きいと思います。新病院に向け考慮していきたいと思います。(女性 看護師)
- 術後の合併症の説明がわかりやすく、仕事の状態観察に役に立つと思いました。(女性 看護師)
- ICUなどの勤務経験がないので、術後の患者管理についてPACUの必要性というところが少し難しかったです。(女性 看護師)
- 術後の合併症に関することが良く理解できた、PACUは周術期医療安全において重要だと思われる。(男性 放射線技師)
- 当院でも、来週から、PACUが、開始されます。周術期における、患者の全身状態の変調に、十分に注意して観察し、対応できるように、今後、研鑽したいと思いました。(男性 看護師)
- 勤務する病院の特性上、周術期に関わることはありませんが、より合併症等へのリスク管理、患者の変化に気付くことができるように細かいことに注意する必要があると再確認しました。(男性 作業療法士)